HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	ご退職記念号に寄せて
著者	大森，一輝; OMORI，Kazuteru
引用	北海学園大学人文論集(68)：1-3
発行日	2020-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

ご退職記念号に寄せて

人文学部長　大　森　一　輝

日本文化学科の追塩千尋先生と中川かず子先生は，2020 年 3 月 31 日をもって，長く教鞭を執られてきた人文学部を定年退職されます。ここに両先生の学部および大学院に対する多大なご貢献に感謝の意を表し，送別の辞を述べさせていただきます。

追塩千尋先生は，1979 年 3 月に北海道大学大学院文学研究科日本史学専攻博士課程単位取得満期退学後，北海道大学文学部助手，北海道教育大学釧路分校助手・講師・助教授，同釧路校教授を経て，1999 年 4 月に北海学園大学人文学部（日本文化学科）に教授として着任されました。

先生の主たる研究テーマは「南都仏教の中世的展開」で，従来等閑視されていた感のあった平安・鎌倉期の南都僧・南都諸寺院の動向について，実態解明を中心に検討を加えられてきました。その成果は，1996 年 6 月に北海道大学より博士（文学）の学位を授与された『中世の南都仏教』（吉川弘文館，1995 年）をはじめ，南都仏教関係 3 冊，国分寺関係 1 冊，説話・仏教関係 2 冊の著書に結実しています。先生が，学部長・研究科長として多忙な日々にあっても，一学究たる姿勢を堅持されたことは，著書・論文だけで 100 点を超える膨大な業績に示されています。

教育面では，学部の日本史概論・特論，人文学基礎演習，人文学演習，日本文化専門演習，大学院では修士課程の日本史特殊講義・演習，博士後期課程の日本歴史・環境文化論文指導特殊演習などを担当され，古代・中世史および仏教史の深い知識と理解に支えられた授業を展開することで，学部生・大学院生を啓発してこられました。先生が優れた教育者でもあったことは，多くのゼミ生がその薫陶を受け，大学院に進学していることからもうかがえます。

大学運営では，2007年4月から10年3月まで人文学部長，12年4月から14年3月まで大学院文学研究科長として学部・大学院の舵取りを任され，その重責を全うされました。このほか，協議会委員，将来構想委員，教務委員をはじめとして重要な委員を歴任され，いずれの職務にあっても大学が直面する課題に真摯に取り組み，学部の発展にご尽力くださいました。

学会活動としては，日本史研究会，仏教史学会，北海道歴史研究者協議会，戒律文化研究会，史学会，日本思想史学会などに所属され，2010年からは北海道歴史研究者協議会の代表委員も務められ，学会を牽引するとともに後進の育成に意を用いてこられました。また，長年にわたり朝日カルチャーセンター札幌校の講師を務め，多くの市民を学問の世界に誘うとともに，標茶町史編集委員および新厚岸町史編集委員として自治体史編纂事業に携わるなど，社会的活動においても専門を活かして大きな貢献をされてきました。

中川かず子先生は，1989年7月にロンドン大学大学院教育学研究科修士課程応用言語学専攻を修了されました。在学中からロンドン大学等で日本語講師を兼務されていましたが，帰国後，北海道教育大学，北海道大学留学生センターで日本語教育科目を担当された後，1992年に北海学園大学教養部に教授として着任され，翌93年からは北海学園大学人文学部教授を務めてこられました。

先生の研究テーマは「日本語教育と外国人による日本語研究」です。前者では，国内外における日本語教育の内容と方法を分析し，それを応用して，教材・教授法を開発されたり，日本語教員の養成に力を注いでこられました。後者に関しては，ヘボン，ブラウン，サトウ，チェンバレンらの日本語研究を具体的な資料に基づいて跡づけ，戦前・戦後の日本語教育についても俯瞰的な見取り図を示されました。その成果は，多くの著書・論文として公刊されています。

教育面では，本学の日本語教員養成課程の立ち上げから運営の全般にわたって20年以上委員長としての重責を担われ，課程の基礎を確立してく

ださいました。学部科目としては，日本語教授法，人文学基礎演習，人文学演習，日本文化専門演習，大学院では，修士課程の日本語研究特殊講義・演習，博士後期課程の日本言語・思想文化論文指導特殊演習などをご担当いただきました。ご自身の研究を充分に活かした日本語教育・教授法についての講義・演習に薫陶を受けた多くの学生が，中川先生の教育法とその実践を我がものにしようと大学院に進学し，その後，国内外で日本語教師として異文化理解の現場に立っています。

大学運営では，1996 年から付属図書館長として，本学の図書館運営とその改革に多大な貢献をされました。また，講義や学生の指導，留学生との交流などで多忙ななか，国際交流委員会，韓国協定校専門委員会，留学生専門委員会でも，委員長として手腕を発揮されてきました。

学外では，日本語教育学会の評議員・代議員，大学日本語教員養成課程研究協議会の理事を歴任し，社会的活動としても，NHK 教育テレビ日本語講座制作委員，文化庁委嘱大学教員養成課程教育内容検討委員をはじめ，北海道国際化推進委員，北海道日本語教育ネットワーク代表など様々な委員を務められました。

以上のように，両先生は，それぞれ歴史学・日本語教育分野の大きな柱として人文学部を支えてきてくださいました。追塩先生は，歴史を学ぶ者として，私にとっては仰ぎ見る先達ですが，それと同時に，教師としても，大学院の全体ゼミで必ず真ん中に陣取ってすべての発表にコメント・質問するお姿，大学運営に関しても，筋を通し着実に仕事を進められるご様子は，私にとってのお手本でした。中川先生は，特に学部の広報企画には，どんなお願いにも決して「ノー」とおっしゃらず，常に全面的に協力してくださいました。

そんなお二人がいらっしゃらなくなるのは，寂しく心細い気もいたしますが，これまで作り上げてきてくださったものをしっかり受け継ぐつもりでおりますので，いつまでもお元気で，人文学部のことを見守っていただければと思います。両先生のますますのご活躍とご健勝をお祈りして，はなむけの言葉とさせていただきます。